

## 会 議 録（ 要 旨 ）

会議の名称	第1回上牧町第10期介護保険事業計画高齢者保健福祉計画策定委員会
開催日時	令和8年5月20日（水曜日） 午後2時00分から午後3時30分
開催場所	保健福祉センター（2000年会館）保健指導室
出席者	<p>【委員13名】 植村委員、中西委員、氏原委員、中村委員、竹島委員、小川委員、向井委員、暁委員、森井委員、児島委員、山田委員、赤松委員、森安委員</p> <p>【事務局6名】 健康福祉部：俵本理事 生き生き対策課：杉分課長、牧浦課長補佐、中川係長、善家、吉田</p> <p>【傍聴者0名】 —</p>
欠席者	【委員2名】 岡本委員、西川委員
会議資料	<p>(1) 介護保険制度の概要</p> <p>(2) 上牧町の高齢者の状況</p> <p>(3) 令和7年度介護保険事業計画の実施状況</p>
議事内容	<p>(1) 介護保険制度の概要について</p> <p>(2) 上牧町の高齢者の状況について</p> <p>(3) 令和7年度介護保険事業計画の実施状況について</p> <p>(4) その他</p>
議事要旨	<p>1. 開会 —事務局より開会—</p> <p>2. 委嘱状の交付及び委員の照会 —町長より各委員に委嘱状の交付— —事務局より各委員の紹介—</p> <p>3. 町長挨拶 介護保険制度は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、支える地域づくりの基盤となる仕組である。本町においても、高齢化の進行や独居高齢者の増加、認知症高齢者支援の充実等、取り組むべき課題が多様化している。本計画作成において、介護サービスの量の確保はもとより、在宅生活を支える地域包括ケアの推進や、介護予防・フレイル対策の充実等、限られ財源の中で持続可能で安心できる仕組をどのように構築していくかが問われている。委員の皆様には、これまでの経験と専門的な立場から、現場の実情を踏まえた忌憚のない意見・提言を賜りたい。本委員会の審議を通じて、高齢者の皆様が安心して暮らし続けられるまちづくりが、一層進展することを期待している。</p> <p>4. 委員長及び副委員長の選任について —事務局推薦により、委員長に植村委員、副委員長に中西委員を選任—</p>

## 7. 議事

### 議第1号 介護保険制度の概要について

－事務局より説明－

#### 委員意見

(特になし)

### 議第2号 上牧町の高齢者の状況について

－事務局より説明－

#### 委員意見

(中村委員)

- ・第10期の計画について、人口や年齢分布は住民基本台帳を基に作るということか。それとも国の速報値がもうすぐ出ると思うが、一部修正等行うのか。

(事務局回答)

- ・基本的には住民基本台帳の数字をベースに考慮していきたい。

(竹島委員)

- ・高齢者人口と第1号被保険者数みると、65～74歳よりも75歳以上の方が多ということか。その人数はどこから出てくるのか。また高齢者人口と第1号被保険者数の数字が違うのはなぜか。

(事務局回答)

- ・高齢者人口とは、住民票を上牧町に置いている方の数字になっている。第1号被保険者数は上牧町外の施設に入所している元上牧町の方は上牧町が保険者となるので、住民票は上牧町になくても、保険者は上牧町のままという方も含まれるので、数字の差が生まれる。

(竹島委員)

- ・認定を受けている人と受けていない人の差はどうなっているか。

(事務局回答)

- ・資料7ページで示している通り、2025年では第1号被保険者が7,350人で認定者数は1,516人となっているので、認定を受けていない人は7,350から1,516を引いた数になる。

(竹島委員)

- ・上牧町はそれだけ健康についての事業について、努力されていると捉えてよいか。

(事務局回答)

- ・そういう取組はたくさん行っている。

(中西副委員長)

- ・介護保険を支給するということと、上牧町に住んでいるということがイコールではないということは、皆さん理解しているのか。例えば上牧町の施設に入っている人で介護認定を受けていれば、上牧町は介護保険を利用してサービスを提供しているわけではないということが大

前提にあるということを理解しないと、専門職や役所の方はそのことが当然の前提にあるので、数字に乖離があるのは当然という認識になるが、今回公募で新しく委員になられた方の中には、分かっておられない方もいるのではないかと。例えば隣町に施設がないので上牧町の施設に入り、住民票を隣町から上牧町に移したので、上牧町が負担しなければならないとなると、財政が破綻してしまい、施設の無い町は介護保険を使わなくてよいことになるので、そうではなく前の住所地在負担するというのが先ほどの説明になる。介護保険は通常の住民サービスとはお金の出し方が若干異なる。

議第3号 令和7年度介護保険事業計画の実施状況について

—事務局より説明—

(中西副委員)

- ・上牧町ケアマネジャー連絡会の開催が令和7年度では6回行っているのに、令和8年度を3回に縮小するのは何故か。

(事務局回答)

- ・令和7年度においては2ヶ月に1回ケアマネジャー連絡会を開催していた。この会はケアマネジャーが主体となることを目的に開催していたが、ケアマネジャーも多忙であるため負担軽減のため回数を減らす取り決めをした。

(中西副委員長)

- ・実情に合わせたということか。

(事務局回答)

- ・そうである。

(中西副委員長)

- ・緊急通報見守り支援事業について、「体調不良時に24時間相談や救急要請に応じた」とあるが、何件応じたのか。

(事務局回答)

- ・はっきりした数字は今手元にはないが、救急要請に関しては、全くない月もあれば、1～5件程度の月もある。相談に関しては毎月10件弱ある。

(中西副委員長)

- ・高齢者等見守りネットワークのQRコードの配布で、行方不明者の発見につながったケースはあるのか。

(事務局回答)

- ・昨年度に関しては、これが活用されたケースはないが、2～3年前に大阪府内で迷っていた方が、上牧町のQRコードを付けていたという情報を基に早期発見につながったケースが実際にあった。

(中西副委員長)

- ・高齢者教室について、実施状況は記載されているのに、単位や実績の

欄が空欄になっているのはなぜか。

(事務局回答)

- ・これは毎年決まった数値で、目標値を設定しているわけではないため、記載していない。

(中西副委員長)

- ・前回の計画策定の際も、単位や実績の決め方が難しいという話がでたが、事業実施がなかったため空欄になっているのは理解できるが、実施しているのに空欄になっていて、なおかつ事業評価「1」となっているのは疑問に感じるので、工夫してほしい。
- ・認知症の正しい理解と認知症ケアパスの普及啓発についても同様で、実績があるのに空欄になっている。空欄はパッとみるとやっていないように見えるので、やったことはアピールとして目に見えるように工夫した方がよい。
- ・徘徊感知機器利用助成事業の実施事業とはどういうものか、教えてほしい。

(事務局回答)

- ・福祉用具貸与の介護サービスがあり、GPS 探知機を貸与される方の通信費の助成を行っている。

(中西副委員長)

- ・通信費の助成なら、そういう表現にしたほうがいい。(一読して図る表現に工夫してほしい)

(中村委員)

- ・要介護認定の適正化について、認定調査票などの点検を全件実施とあるが、何件あるのか。点検は1人で行っているのか。

(事務局回答)

- ・新規・区変・更新の調査区分があるが、年間でいうと1,100件程度となっている。点検は介護保険系の認定担当の者が行っている。ケアマネジャーの資格を有しているので、国の認定調査マニュアルに従ってチェックし、誤りがある場合は指導を行い、適正な介護度になるように努めている。

(中村委員)

- ・ケアマネジャーによってチェックの内容が違ってくると思うので、最終的にチェックしてもらえるとありがたい。

議第4号 その他

(中西副委員長)

- ・新しい委員もおられるので、用語の説明は丁寧にしてほしい。

以上